

# 天栄中だより

鈴鹿市立天栄中学校

510-0258 鈴鹿市秋永町 1839

Tel 059-386-0444 Fax 059-386-0445

## 短歌の交流が始まって10年目を迎えます

2011年3月11日14時46分、宮城県沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生しました。これにより東北地方を中心に北関東にも被害が及び、地震による揺れの被害のみならず、大津波、火災などで2万2000人余の死者・行方不明者が発生しました。

当時、私は神戸中学校に勤めていました。ちょうど掃除の時間だったと思います。エレベーターに乗っているような不思議な感覚でこの揺れを感じたのを覚えています。

さて、本年度も3月11日に半旗を掲げ、黙とうを捧げこの震災で犠牲になった方のご冥福を祈るとともに、避難訓練、防災学習、女川中学校との短歌交流の取組を実施します。

この女川中学校との交流の始まりは、東日本大震災が起こった平成23年夏に、女川中学校の20名の生徒が鈴鹿市で一週間ホームステイをし、市内中学生と交流したことがきっかけです。

平成24年度から、女川中学校と鈴鹿市内の全中学校で俳句・短歌を通じた交流が始まり今に至ります。

このような経緯を知ると、当時の状況や被害にあわれた方々へ思いを巡らし、気持ちのこもった短歌が作成できるのではないのでしょうか。

また、この日になると思い出すが、これも神戸中学校に勤務していた時の事です。朝、同僚の先生が「須藤先生、これ胸が詰まりますね」とある新聞記事を私に見せてくれました。それは、「震災刻む31文字 気仙沼高文芸部 心の軌跡」という記事でした。紹介します。

### 見つからない 友を想って 泣いたのは やっと四月の 中頃だった

宮城県気仙沼市の気仙沼(けせんぬま)高校の文芸部員が東日本大震災を主題に短歌を詠んでいる。がれきの街を歩き、なくした家族や同級生への思いをつづる三十一文字。時に押しつぶされそうになりながら震災と向き合ってきた心の軌跡をくっきり映し出す。部活の一環として取り組んできた短歌づくりを震災後も続けている。(中略)

冒頭の一首は畠山海香さん(二年)のうた。四月初め、友人が行方不明と知った。「びっくりして、まだ『悲しい』まで考えられなくて」二週間たったある夜、突然涙が込み上げてきた。

同居の祖父をなくした。元気なよく冗談を言う祖父だった。時期が遅れた火葬の時の心情を素直に言葉にした。

### 死に顔を「気持ち悪い」と 思ったよ ごめんじいちゃん ひどい孫だね

何気ない日常のありがたみも知った。震災の日、いつも通り分かれた同級生と再会できたのは五月になってから。「学校来んのめんどくせーよとおもってたけど、行けるのがどんなに幸せかって」

### 「また明日」言葉の重みを 今知った 明日は当たり前じゃないから

私もこの記事を読んで胸に込み上げるものがありました。この記事からあなた達に「こんなことを学んでほしい。知ってほしい。」という確かなものを示すことはできませんが、何かを感じてほしいです。そして、感じたことを今後の生活に活かしてほしいという願いを持っています。

## 【昨年の避難訓練の様子です】

一次避難



二次避難



## 卒業生のみなさん 感動の卒業式をありがとう

3月7日（月）に令和3年度 第74回の卒業証書授与式（卒業式）が行われました。

担任の先生を先頭に卒業生が保護者、来賓、在校生、職員の大きな拍手に迎えられの中を入場して式が始まりました。

入場が完了し、国歌斉唱、校歌斉唱の後、厳粛な雰囲気の中、卒業証書授与に移りました。

担任の先生が、生徒一人ひとりの名を読み上げると、ビシッと起立し「はい！」という大きな声での返事は3年生の成長を感じました。

卒業生代表として卒業証書を受け取った瓜生彩乃さんは壇上で私にそっと「ありがとうございました」と感謝の言葉を言ってくれ、私は感激しました。富村志帆さんの送辞と田中魁君の答辞は涙を誘う素敵な内容でした。

そして、式歌「正解」を歌う場面になって、式は最高潮を迎え感動あふれる素晴らしい卒業式となりました。

卒業生のみなさんの未来に幸多からんことを祈っています。

